SGH だより
SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

全学年統合版
Ｎｏ．１：　Ｈ２９．４．
編集：ＳＧＨ推進室
発行責任者：宮﨑　栄治

真のエリートを目指して～校長先生からのメッセージ～

校長　宮﨑　栄治

昔から、日本では「出る杭は打たれる」という言葉が使われる。最近ではあまり見られないが、土地の境界を示したり、建物を建てたりするために用いる横並びの杭の頭は同じ高さでないといけないという。だから、ちょっと出ている杭は大きな木槌で叩かれて同じ高さに合わせられるという訳である。これは、日本人が横並び意識の強い民族であることを表しているという人もいる。

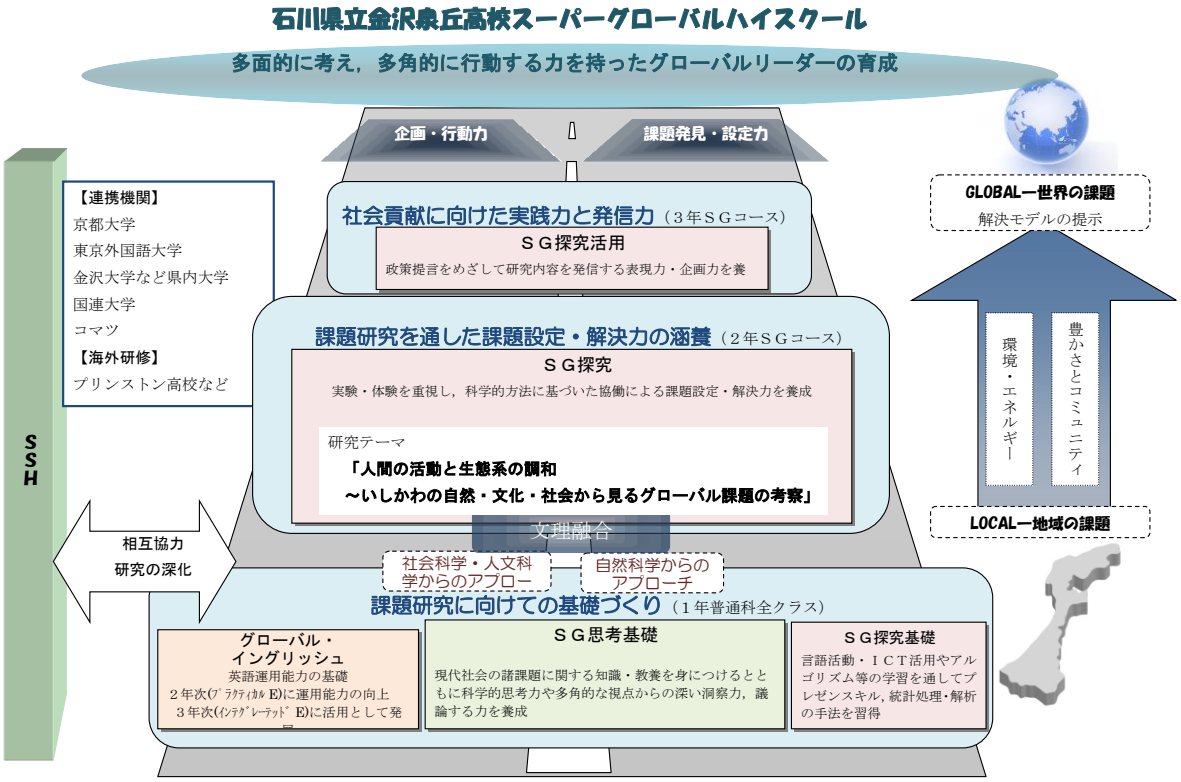
人にもこれを適用してしまう風潮があるようである。突出した者が現れると、あいつは目立ちたがりだと忌み嫌い、足を引っ張ろうとする者もいる。

「エリート」という言葉がある。日本ではあまり良いイメージでは使われないようである。エリートというと高学歴で一流企業や官公庁に勤務し、自信たっぷりに肩で風を切って歩き、時に傲慢と取られるような言動をする人たちというイメージだろうか。エリートぶってと嫌がられたり、また、エリートの功績よりも不祥事が好まれて報じられたりする傾向がある。

もともと、「エリート」とはフランス語で、日本語に訳すと「選ばれし者」、「選良」というような意味である。社会の中で優秀とされ指導的な働きが期待される人たちや集団を指すという。高校時代（今から４０年以上前）の授業で、倫理の先生が、欧米ではエリートというのは私生活を犠牲にしてでもその優秀な能力を国や社会のために使う人たちだが、日本の最近のエリートはその能力を自分の生活を豊かにするのに使うと嘆いておられたのが印象的であった。

本校では、一昨年から、スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）研究校に指定され、「多面的に考え、多角的に行動する力を持ったグローバル・リーダーの育成」を掲げて、高い志と広い視野を持った“真のエリート”の育成を目指している。

出る杭も木槌が届かないほど高く突出していたら叩かれることはない。生徒のみなさんには、打たれない、出る杭になってほしい。また、そうならなくても、出る杭を打たない人になってほしいと願っている



１年生での取り組み　～3つの学校設定科目に取り組みます～

ＳＧ 探 究 基 礎

プレゼンスキルの基礎を学び、地元で現在起こっているローカル課題の問題の解決の方法やプレゼンテーションによる表現力を身につけます。２年次の課題研究の足がかりとなります。

ＧＥ（グローバルイングリッシュ）

英語でのプレゼンの基礎を学び、実践としてパフォーマンステストを行います。まずストレスフリーに、楽しく人前で話せるようになる練習だと思って取り組んでいきましょう。金沢大学の留学生とのディスカッションも予定しています。

ＳＧ思 考 基 礎

現代社会の基礎知識・理論の習得に加え、今日の社会の諸問題について、ディスカッション等を通して、多面的・科学的に考え、協働して合意形成を行う力、論理的に表現する力を養います。1 学期は様々な問題について考えるトレーニングを行っていきます。

昨年夏に行われた、学部学科調べの発表の様子。

ＧＥでのグループワークの様子

昨年度、ＳＧ思考基礎では、植物の葉の表面の細胞数から面積を割り出す実験を行った。科学的に考え、データを処理し、分析・考察する演習の１コマ。写真は顕微鏡を使って、カナダモの葉の表面の細胞数を数える様子。

SG コースとは？

皆さんが２年生になる際に、文理選択（文型・理型に分かれること）を行います。その時のもう一つの選択肢が SGH の指定を受けて新設された「文理融合の SG コース」です。

特徴１　課題研究に思い切り取り組むことができる！

特徴の一つめは「SG 探究」という課題研究の時間が週２時間あることです。本校での課題研究は、現在地域で、そして世界で起こっている様々な問題を社会・文化的な面、いわゆる文系の視点と、科学・自然的な面、いわゆる理系の視点の両方から考え、解決を目指して行う研究のことです。

特徴２　世界を学ぶ様々なチャンス！

グローバル課題に関する様々な講義を第一線で研究されている方から聴いたり、アメリカ研修を始めとしたフィールドワークで実体験を通した学びなど、皆さんの好奇心に応える様々なチャンスが用意されています。

グローバルのススメ　～グローバル×私～　　file1. 矢部　篤雄先生（数学）

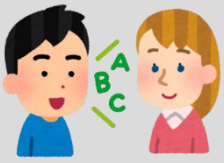
「グローバルってよく聞くけど、結局何なの？」そのように思う人はいませんか？このコーナーでは、様々な先生方に、グローバルをキーワードにご自身の体験談やそこから感じたことなどを自由に語っていただきます。皆さんの疑問の解決、そして将来の道筋を決める一助となれば幸いです。第１回目は学年主任の矢部先生です。

グローバルとは一番縁遠いローカルな私がなぜ「グローバル×私」というタイトルで文章を書くことを依頼されたのか？いまだに謎である。（単に学年主任というだけであろう…）逆に「グローバル×（ダメな）私」と解釈して文章を書けばいいのかと勝手に思い全然ダメな立場からグローバルを語ってみようと思う。

まずなぜ私は海外に行くことや外国の方と話すのが嫌いになってしまったのかというと、英語が話せないだけでなく恥ずかしいという気持ちが一番邪魔をしていると思う。海外に行ってもできるだけ日本語のわかる人としか話をしない。すなわちグローバルな人からすれば、行く意味や楽しみが半減しているのである。それが痛いほど自分でもわかるのでなおさら嫌なのである。

もうおわかりだろう!?「グローバルのススメ」の第一歩は私と逆のことをすればいいのだ。まずミスを恐れず、恥ずかしい気持ちを捨て、勇気を持って話しかけること！それに尽きる。

最後に別の観点から…泉丘の友人や教え子の中にグローバルな人はたくさんいるが、共通しているのは英語ができるとか好きだというのはあまり関係なく、仕事や夢を追いかけていたら外国語が必要になり、グローバルに活動するようになっていたということ。英語ができないとダメだとかあまり重く受け止めず、素直に海外に興味を持ち世界に役立つことを「夢」に持とう！



SG 探究・NS 探究 α ではどんなことに取り組むのか？

SG コースと普通コース文型の皆さんが今年度それぞれ取り組む「SG 探究」と「NS 探究α」という科目ではいったいどのようなことに取り組むのでしょうか？

1 年生：
ローカル課題を発見する
調査・発表

２年生 SG ｺｰｽ
ローカル課題の中にあるグローバル課題の解決についてテーマを設定し、課題研究を進める。各種全国コンクール参加や論文作成。

それぞれの研究を交流!!

２年生文型
ローカル課題について新たなテーマを設定し、「研究」へと深化させる。
各種全国コンクールや NSH 合同発表会も参加予定!!

２年 SG コース

国連大学（東京）に訪問しました!!

3 月 27 日(月)～28 日(火)に国連大学を訪問し、4 月から始まる課題研究のテーマを設定するためのヒントを探して来ました。2 日目の東京外大では留学生とのディスカッションを通して、JICA やプランインターナショナル Japan では、職員の方からのレクチャーを通して、グローバル課題について考える機会をもつことができました。今まで知らなかったことを、自分の目で見て、耳で聞いて知ることの楽しさを味わった 2 日間でした。

☆旅程表☆

1 日目：国際連合大学にて、様々なレクチャーを受講後、国連大ビルガイドツアー
2 日目：東京外国語大学・プランインターナショナル Japan・国際協力機構 JICA の各コースに分かれ、コース別に研修

外国人から見た日本の問題や、その地域特有の問題を聞くことができ、今までとは違った視点から物事を考えることが、新鮮でとても面白かった。自分の英語力の至らなさを痛感するとともに、さらに英語力をつけようと意欲的になることができた。本当に良い体験だった。（東京外国語大学）

「国際協力は自己満足に陥りかねない」という言葉が印象に残った。先進国が支援を押し付けるような態度をとるのではなく、途上国の人材を育て、自力で発展していけるような支援をしていくことが大切とわかった。(JICA)

国連大にて集合写真

他の人ができないことができるということで自分の価値を高めることが大切であるということが印象に残りました。私ができてほかの人ができないことを考えてみると全くありませんでした。これから、そのような力をつけるためにも、いろいろなことに怖がらずに挑戦していきます。また、今しかできないことにも全力を注いでいきたいと思います。
（プランインターナショナル Japan）

私たちがすべきことは、私たちが望む社会を作るために私たちに何ができるのかを考えることであり、これからの日本の行く末を考えたときに後悔しない選択をすべきだと思いました。

グローバルのススメ　～グローバル×私～　　file1. 北島　雅恵先生（国語）

「グローバルってよく聞くけど、結局何なの？」そのように思う人はいませんか？このコーナーでは、様々な先生方に、グローバルをキーワードにご自身の体験談やそこから感じたことなどを自由に語っていただきます。皆さんの疑問の解決、そして将来の道筋を決める一助となれば幸いです。第１回目は学年主任の北島先生です。

「老師、我們失敗了。」（先生、私たち失敗しました。）西安外国大学学生寮の二段ベッドの下で、彼女は泣いていました。開放政策は始まっていましたが、今ほど自由でなかった頃の中国。大学生を中心とした民主化運動が起こり、結局、人民解放軍による武力介入で鎮静化したという天安門事件（1989 年 6 月 4 日）の翌日の光景です。

首都北京から遠く離れた古都西安でも、多くの大学生はデモに参加しましたが、最終的に政府はこれを鎮圧しました。

当時、私は日本語学部で外国籍教師をしていました。そして、人生が「政治」や「国家」によって大きく左右されるなど想像すらしたことのない、平和ボケした若いお気楽な日本人女子だった私は、大して自分と年齢の違わない学生にかける言葉がみつかりませんでした。

あの中国で過ごした2年間が私の目をグローバルな世界へと開かせてくれました。これは、私の若い頃の経験ですが、現在、世界では一国で解決できない問題が山積しています。

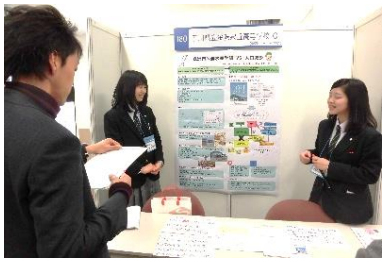
その解決を担う皆さんには、若いうちから広い世界へと飛び込んで行ってほしいと思います。

３年 SG コース

SGH甲子園に出場してきました！！

３月 19 日（日）ＳＧＨ甲子園では、全国のＳＧＨ校が集まって各学校で行ってきた課題研究の成果を発表し合いました。SG コースの課題研究班３チームが出場し、ポスター発表を行ってきました。３チームとも堂々とした様子で、時に聴衆に語り掛けながら、素敵な発表を見せてくれました。聴衆の方々からは、質疑応答が非常に誠実であったなどと好評でした。発表した生徒たちは「自信がついた」「自分たちの研究はまだまだ可能性を秘めている」と様々な気づきがあったようです。

高校生だって、世界を変える力がある」。今回 SGH 甲子園に参加して何度もそう感じました。グローバル化が急速に発展する中、高校生にもできることは確実に増えてきています。遠く離れた国の人々と連絡をとったり、実際に現地に行きボランティアや調査などの活動を行ったり、インターネットや英語を駆使し、どんな情報でも集めたりすることができるのです。私はこの SGH 甲子園で全国の SGH 生の世界の様々な問題に対する意欲に心を打たれました。



私たちは研究の中で、子供たちが、こども食堂を通して「社会常識」を培うことができるのではないかと発表していました。すると、ある大人の方から「社会常識って何？」と聞かれました。私は私たちが当たり前だと考えていることが社会常識であると考えていたのですが、本当にそれが社会常識に値するのでしょうか。その質問してくれた方がおっしゃっていたことなのですが、泉丘高校で常識と思われていることが、他の学校ではそうでないかもしれません。そう考えると私たちの考える常識は、本当の社会常識とは言えないのかもしれません。「社会常識」という単語一つにおいても、多面的に考えないといけないのだと思いました。

３年 SG コース

プリンストン高校生が訪問しました!!

３月 13 日(月)～16 日(木)にプリンストン高校(アメリカ)の高校生が泉丘高校を訪問し、日本での学校生活を過ごし、肉まんづくり(家庭科)や書道体験(芸術)、体育などの授業も一緒に体験しました。また、プリンストンの生徒たちは４日間、泉丘の生徒とご家族の家庭にホームステイをしていました。最終日には、プリンストン生たちは日本の家族の一員となるという経験ができた喜びと、別れの寂しさの両方を顔ににじませながら、出発していきました。

◀ 各授業の様子

▲　最後に、本校アーチ下で集合写真をパチ

▼ホームステイを受け入れての感想

初めは、上手く英語で会話ができるのか、気まずくならないか、会話の話題がなくなったらどうしようと、楽しみの反面、不安ばかり募っていました。たしかに、バスの中での沈黙は泣きたくなりましたし、自分のコミュ力、英語力のなさに病みそうになった。しかし、銭湯に行ったりしたことは、非常に楽しく一生の思い出となったと思います。

私の家族は１人も英語が話せないので「説明する力」がついたように思います。日本語が通じないときは簡単な日本語に言い換えたり、英語で説明したりしました。文法がぐちゃぐちゃだったり、単語ばかり話したり、ゆっくり考えながら話してもきちんと通じるし、一生懸命理解してくれたので、意思疎通の面で困ることはありませんでした。また冗談も言い合えたりして「外国人」と会話するというよりも「友達」と会話するような感じでコミュニケーションがとれて嬉しかったです。

グローバルのススメ　～グローバル×私～　　file1. 久保出　将司先生(数学)

「グローバルってよく聞くけど、結局何なの？」そのように思う人はいませんか？このコーナーでは、様々な先生方に、グローバルをキーワードにご自身の体験談やそこから感じたことなどを自由に語っていただきます。皆さんの疑問の解決、そして将来の道筋を決める一助となれば幸いです。

本校で３年生の担任を４回させていただいたが、特に３年前に卒業した４回目のときの卒業生の大学での話を聞くと、急速に大学も「グローバル」な取り組みを行っていることを感じる。その１つに、大学が企画する海外への留学がとても多くなっていることがあげられる。例えば医学部の学生が、３週間ほどスコットランドの大学へ行き、現地の講義を受けるいうもの。この学生はニュージーランドにも２週間行ったらしい。あるいは、理学部の学生が、５週間チェコの大学へ行き、現地の大学で数学や物理の講義を受けるというもの。この学生はインドネシアにも行ったらしい。海外の学生と交流することで、日本の大学生との共通点や違いを直接感じ、大きく刺激を受けたようだ。

また、こんな話もあった。ある学生が留学に興味があって大学の担当者に話を聞きに行ったら、「あなたの場合は無理です」と言われた。どういうことかというと、この大学では留学の希望者がとても多く、英語の成績が優先され、その学生はそのレベルにとうてい届かなかったというものだ。英語の力が、入試だけでなくこんなところにも影響することに驚かされた。

現在の大学には留学のメニューがたくさん用意されており、今から大学に進学する君たちをとてもうらやましく思う。興味のある人は、どの大学に行ったらどんな留学ができるのかできる限り調べ、留学を実現させて欲しい。そして、志望する大学にしっかりと合格して欲しい。英語の力をつけることを忘れずに！